

群読は国語の総合学習

群読は楽しい

群読は楽しいものです。群読を始めると、子どもたちの目が輝いてきます。表情が生き生きとしてきます。個人の朗読にはないハーモニーが生まれます。

子どもたちの声が小さくはないでしょうか。声が響かず、声が届いてきません。相手に声が届かないのです。この課題を解決する手だてはないのでしょうか。

群読には、人を巻き込んでいく力があります。学級を前にして、一人では声が出ないという子どもでも、友達と一緒にだと、意外と声を張り上げることがあります。一人で読む朗読はあまり好きではないが、群読は好きだという子どももいます。まずは、声に出すことの抵抗と障害をなくし、音声化を楽しむことが一番です。

群読は国語の総合学習

群読をするための話し合いにも、価値ある学習が認められます。教材のどこをどのように分け、誰が分担するかということは、内容と文体に依ります。よい群読作品をつくるためには、論理的な分析と感覚的な把握の両方、すなわち豊かな解釈が前提となります。

子どもたちは活発な話し合いを展開します。主張したり実演したり、ときに沈黙し、ときに歓喜し、子どもと教室が共に活性化します。

群読は、国語の総合学習なのです。文字言語と音声言語を結び、理解学習と表現学習を関連させ、論理と言語感覚を共に働かせます。音声を発することと受けることを同時的に両立させ、ときに身体言語を取り入れた言語の立体的な学習と言えます。

群読の教育的効果

群読とは、劇作家木下順二氏によれば、「複数の読み手による朗読」です。群読は、あくまでも個の朗読を基本とします。それを前提として、教材の意味的・文体的な必然性から、複数の読み手による読みが効果を上げるだろうと判断された場合に群読を取り入れるようにします。

群読を国語の授業に取り入れることには、個人による朗読の効果に加えて、次の3つの効果を認めることができます。

- | | |
|----------|-----------------|
| (1) 学び合い | 話し合うことによる読みの深まり |
| (2) 響き合い | 読み合うことによる読みの深まり |
| (3) 聞き合い | 聞き合うことによる読みの深まり |

子どもたちは、朗読することを通して、文章に対する主体的な目を育てていきます。特に、群読にあっては、互いの声が他を刺激し、波及し合って、好ましい全体の読みをつくり出すことがあります。

その全体の読みをつくり上げるための話し合いは、教材解釈の紹介のし合い、すなわち学び合いです。それは、互いの読みを聞き合うことによってさらに深まっていきます。